

# こどもサポートネット事業

予算額:16,784 千円(区 CM 自由経費)

## 1.目的

区内小中学校において、学校生活や家庭生活・家庭環境、経済的困窮等の課題を抱えたこども及び子育て世帯を発見し、区役所における支援チームと連携して、保健福祉の支援制度や地域資源の適切な支援につなぎ、社会全体で総合的に支援するしくみをつくる。

## 2.内容

- スクールソーシャルワーカー(SSW)4名(令和4年度までは2名)、こどもサポート推進員4名を区役所に配置し、担当の学校ごとにチームで活動する
- 学校の教職員による児童・生徒への「気づき」を活かし、その課題の有無及びその現況を見える化したスクリーニングシートを通じ、スクールソーシャルワーカー(SSW)による専門的見地から課題の状況を評価し、こどもサポート推進員を通じ適切な支援に繋ぐ

## 3.令和4年度事業指標・実績

指標:こどもサポートネットで個別に支援した事例のうち前向きな変化が見られた割合:50%以上

実績:こどもサポートネットで個別に支援した事例のうち前向きな変化が見られた割合:76.3%

### 実績内容

各校で順次スクリーニング会議Ⅱを開催してアセスメントを行い、その結果に基づき支援を行っている。

※アセスメント対象の子どもの数 53 人

### 成果と課題

不登校などの解消には、幼少期・小学校からのより早い時期の発見と対策が必要。

### こどもサポートネットを活用した好事例

- 区内中学生。入学当初から不登校。場面緘黙症。登校するときは保護者が付き添っていた。学校はオンラインでの授業を行うとともに、こどもサポートネットで区の学習支援事業につなげた結果、1人で登校できるようになった。
- 区内小学生の兄弟。母子家庭。母親は精神的に不安定でネグレクト傾向。こどもは休みがちで遅刻も多い。こどもサポートネットがこども食堂につないだ結果、コミュニケーションが図れるようになり、母親とも落ち着いて普通に登校できるようになった。

## 4.令和5年度事業内容

---

指標:こどもサポートネットで個別に支援した事例のうち前向きな変化が見られた割合 50%以上

スクールソーシャルワーカー(SSW)2名を増員し計4名、こどもサポート推進員4名を区役所に配置し、教育文化課スクールソーシャルワーカー(SSW)と連携しながら、取組みを進めていく。

### 現在の状況(6月末現在)

- アセスメントによる支援のためのスクリーニング会議Ⅱの開催 14回
- アセスメント対象の子どもの数 38名